

漢方の臨床

Journal of Kampo Medicine

Published by The Association of East-Asian Medicine

2

第73巻・第2号

2026

〔主な内容〕

〔口絵〕 目でみる漢方史料館(499)	渡辺 浩二	174
〔口絵〕 目でみる漢方史料館(500)	小曾戸 洋	178
巻頭言	小曾戸 洋	183
ストレートネックに随伴する頸部痛と睡眠障害が		
四逆散により改善した1例	半下石美佐子	185
心窩部痛、頭痛、背中の凝りと痙攣を呈する機能性胃腸症に対し		
四逆散と呉茱萸湯の併用が奏効した1例	渡部(深井)志保	191
東京医大漢方医学センターだより(57)	矢数芳英 他	203
煎じ薬のすすめ(7)	並木隆雄 他	213
飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より⑩	竹内 肇 他	222
私の心に残る症例(2)	秋葉 哲生	229
東洋堂経験余話(392)	松本 一男	230
漢方牛歩録(434)	中村 謙介	233
恩賜神農像秘話		
木村博昭長久が祭祀伝承した浅田宗伯の守本尊神農像	渡辺 浩二	235
東亜医学協会の沿革について(11)	平崎 真右	245
オウバク四方山話	笛木 司	255
黄柏の現在の市場流通状況	宮嶋 雅也	259
日本における黄柏の歴史、および薬としてのキハダ	安井 廣迪	263
第1回大北漢方研究会の報告	北原 英幸	271
漢方医界のMEMO		273

東京医大漢方医学センターだより

(57)

最近のカルテから

全身倦怠感・易怒性に抑肝散加陳皮半夏が奏効した1例

〔 自覚症状の再燃を改善しえた「子母同服(母子同服)」の有用性 〕

○^{1) 2)} 矢数 芳英・^{1) 3)} 班目 有加・^{1) 4)} 平澤 一浩^{1) 5)} 渡邊 秀裕・^{1) 6)} 伊藤 正裕・¹⁾ 及川 哲郎

はじめに

抑肝散は、もともと小児の夜泣きなどの症状に用いられてきた漢方処方であるが、近年では小児に限らず成人の精神症状に対しても幅広く使用されている。さらに、

認知症の周辺症状 (behavioral and psychological symptoms of dementia: BPSD) に対する有用性も報告されている。

本稿では、全身倦怠感および易怒性を主訴とする症例に對し、抑肝散加陳皮半夏を投与したところ、比較的早期 (投与開始2週後) に易怒性の改善が認められ、その後全身倦怠感も軽快した一例を経験した。経過中に自覚症状の再

燃を認めたが、「子母同服 (母子同服)」を試みることで症状の改善が得られたため、その経過を報告するとともに、本処方および治療法の臨床的意義について考察する。

症 例

【症 例】 37歳、女性

【主 訴】 全身倦怠感、易怒性

【既往歴】 アレルギー性鼻炎

【現病歴】 3カ月前より、起床時のだるさ (全身倦怠感) を自覚するようになった。「朝、体が動かなくなってしまう感じがする」と訴える。その後、ほぼ毎日倦怠感が持続

し、動けなくなって仕事を休むこともあるという。朝の起床が非常につらく、何とか仕事には出勤しているものの、身体の重だるさが強く苦痛であった。

また、全身倦怠感の出現とほぼ同時期に、夫より「以前よりイライラしている」と指摘された。「様子が少し違うため、病院を受診したほうがよいのではないか」と勧められたという。本人は「イライラの原因は子育てによるストレスだと思う」と述べていた。

子どもは2歳および5歳の2人であり、上の子（5歳）は痼癰を起こしやすく、興奮して暴れ落ち着かなくなることであり、症状が強い場合には保育園に通園できないこともあるという。そのため家庭内の雰囲気不安定になることがあった。

母親（患者本人）と上の子がともに感情的になりやすく、些細なことで衝突することが多かった。その影響で下の子（2歳）は萎縮しており、夫は「腫れ物に触るような状態で距離を取っている」と表現していた。

全身倦怠感および易怒性の改善を目的に内科を受診したところ漢方治療を勧められ、漢方医学センターへ紹介となった。

【現 症】 身長163 cm、体重57 kg、BMI 21・5

【内 服】 ペポタスチンベシル酸塩

【漢方医学的所見】 色白で体格は中肉中背

問診…食欲は良好。胃もたれを自覚しやすく、脂質の多い食事や摂取量が多い場合に症状が出現する。便通は1日1回で良好。便秘は認めない。睡眠は良好で、入眠困難や中途覚醒はないが、起床時にさらに睡眠を取りたいほどの強い倦怠感を自覚する。冷えの自覚はなく、手足の冷えも認めない。のぼせの自覚があり、入浴を長時間行うことができない。人混みでは頭部の熱感やめまい感を自覚する。子育てによるストレスから易怒性は強いが、抑うつ気分は認めない。飲酒歴なし、喫煙歴なし。

月経は30日周期で規則的。月経痛は強いが、経血量は中等量で血塊は認めない。妊娠・出産歴は2回。

舌診…淡紅、薄白苔

脈診…沈やや弱、手は温かい

腹診…腹力やや弱、腹壁は軟、胸脇苦満（一）、胃内停水（一）、心窩部の圧痛（一）、小腹不仁（+）、両側臍傍の圧痛軽度（+）

【その他】 下肢 pitting edema（一）、足底の発汗（一）

【処 方】 ツムラ抑肝散加陳皮半夏エキス7.5 g／日の投与を開始した。また、痼癰を起こしやすい上の子（5歳）にも、可能であれば同方の服用を勧めた（子母同服）。「まずは自分で飲んで試してからにしたい」とのこと。

煎じ薬のすすめ(7)

煎じ薬のピットホール…特有の漢方生薬の副反応

―生薬単独及び相互作用の知識の必要性

日本東洋医学会関東甲信越支部専門医
スキルアップワーキンググループ

○ 1)2) 並木隆雄・3)4) 中田佳延・5) 小暮敏明
6)7) 上野眞二・8) 吉野鉄大・3) 新井 信

抄 録

漢方薬の副反応は、専門医としては当然理解している必要がある。しかし、煎じ薬では、エキス製剤と共通のもの以外に、煎じ薬に特有で配慮すべき副反応がある。それは、煎じ薬が利点と考えている加味方による相互作用や強力な作用が出現する場合があるため、エキス剤と異なる指示が必要な場合がある。煎じ薬の特性を理解し、安全に使用するための不断の努力が必要なることを理解する。また、漢方薬の処方箋を受ける薬局などとの連携や情報共有をすることで、共同体としての煎じ薬の安全性の向上の取り組みが必要である。

はじめに

今まで、このシリーズでは煎じ薬の優位点を強調した論文を掲載し、今後に煎じ薬を始めたい人の契機になるような内容を紹介している。それは、関東甲信越支部のグループの期待していることである。とはいえ、煎じ薬の処方、それなりに敷居が高いのにもかかわらず、現時点で煎じ薬を使用している。それには、副作用にならないように多方面に考えをめぐらし、また当然新しい知識もアップデートして勉強しながら、果敢に患者様への医療を理想に近づけていく医療をしている医療関係者が頑張っていることの一端も書くこととした。

飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算^①69〕

『最近の治験・知見・事件!』 パートⅡ^{①54}

抑肝散単剤では改善しなかったイライラに

釣藤散の併用が奏功した1例

○竹内 肇・松山 圭・川野綾子・中尾桂子
吉永 亮・矢野博美・井上博喜

はじめに

過去の投稿で筆者の経歴について何度か言及したが、小職はこれまで産婦人科医としてキャリアを積み、2023年度からは飯塚病院漢方診療科で東洋医学を学び研鑽を積んでいる。その中で少なからず、西洋医学が無効の症状に対して東洋医学が著効する「感動症例」を経験するわけだが、今回もそのような症例をひとつ、皆さまにご報告させていたきたい。

症 例

【症 例】 51歳 女性

【主 訴】 イライラ、不安、更年期障害

【現病歴】 X-2年から更年期障害を疑う様々な症状（頭痛、のぼせ、不眠、意欲低下、肩痛・関節症など）を感じるようになっていた。飼っていたペットが死んだことを契機に、とくに不眠や意欲低下などの症状が増悪したため漢方治療を希望して初診した。当帰芍薬散（加附子）や加味帰脾湯などを服用して症状に改善があり、以後はしばらく安定経過となっていた。

X年8月頃から、夫と些細なことで口論することが増え、徐々に夫も言動がきつくなり、モラルハラスメントと感じるような言葉をあびせられることもあった。家庭内別居のような状況となつてしまい、夫は家計に給料を入れることすらしなくなった。夫に対するイライラが募る一方、離婚しようにも職業経験に乏しく独立することには不安もあつて、精神的に落ち着かない日々が続くようになった。心療内科にも通院して、ボルチオキセチン臭化水素酸塩やスルピリド、ロラゼパムなど処方されたが改善に乏しかった。頭痛や肩こり、立ちくらみのようなめまい感などの症状が再燃するとともに、何をするにも意欲が湧かず、食事も摂れないほどに憔悴していた。不眠も増悪して、日中の眠気や倦怠感も強く感じるようになった。

【既往歴】

腰椎ヘルニア、アレルギー性鼻炎、慢性湿疹

【家族歴】

父…糖尿病、潰瘍性大腸炎。母…メニエール病

【薬剤歴】

ボルチオキセチン臭化水素酸塩、スルピリド、ロラゼパム、プレガバリン、結合型エストロゲン、プロゲステロンなど

【生活歴】

喫煙…なし 飲酒…機会飲酒

【初診時現症】

身長154 cm、体重43・5 kg、BMI 18・3、
血圧111/72 mmHg、体温36・7℃

【血液検査】

WBC 2490/μL、RBC 417×10⁴/μL、Hb

12・3 g/dL、Ht 38・9%、Plt 22・7×10⁴/μL、AST 17 U/L、ALT 11 U/L、LDH 137 U/L、ALP 36 U/L、
γ-GTP 9 U/L、T-Bil 0.5 mg/dL、Alb 4.2 g/dL、UA 3.8 mg/dL、BUN 13・6 mg/dL、Cre 0・64 mg/dL、Na 140 mmol/L、K 3.9 mmol/L、Glu 86 mg/dL、LDL-cho 109 mg/dL、TG 63 mg/dL

【尿定性検査】

白血球 (一)、潜血 (一)、蛋白 (±)、糖

(一)、ケトン (一)

【漢方医学的所見】

【自覚症状】

寒がりで冷房は苦手（初診時は冷えのぼせが顕著だったが、治療により発汗やのぼせは軽快していた）。食欲はないが努めて食事を摂るようにはしている。排便は1～2日に1回程度で腹満感までではない。排尿は1日に6～7回。軽度の口渇あり、飲水は1日1.5 Lくらい。不眠（入眠困難・中途覚醒）、たまに悪夢を見る、日中の眠気がある。頭痛がある（必ずしも朝とは限らない）。肩こりがある。目の疲れがある、皮膚乾燥あり、足がつる。倦怠感・体の重怠さを感じる、すぐ疲れる。浮動性のめまいや立ちくらみあり（天候の影響はあまり感じない）。夫の冷淡で攻撃的な態度にイライラしたり傷ついたりする。将来を考えると不安が募り悲しくなる。眼瞼痙攣あり。

【他覚所見】

望診…顔色やや青白い。脈候…浮沈中間くや

恩賜神農像秘話

木村博昭長久が祭祀伝承した浅田宗伯の守本尊神農像

渡 辺 浩 二

はじめに

神農像というと毎年十一月二十三日に湯島聖堂で行われる神農祭で開帳される恩賜神農像が由緒も正しく有名である。恩賜神農像の由来詳細については、湯島聖堂の斯文会出版物はもとより、本誌でも安西安周「聖堂安置の神農像記」(9巻3号)、新田興「明治天皇御物神農本像事略」(5巻6号)や矢数道明「恩賜神農像祭祀変遷年代表」(15巻7号)ほかの記事がある。湯島聖堂の神農像については、矢数道明が指摘するように安西安周「聖堂安置の神農像記」に詳細に記され、また必要な文献については、矢数道明論文に全て記載されている。

湯島聖堂の神農像は明治天皇から浅田宗伯(1815-1894)へ下賜されてから恩賜神農像と呼ばれるように

なり、浅田宗伯邸内において江戸医学館以来の祭祀が続けられた。浅田宗伯没後、恭悦(1856-1909)が医系を継ぎ、その後継として工藤直之助がしばらく医業を営んだというが、恭悦没後医系は断絶した。その後恩賜神農像は、浅田宗伯弟子木村博昭が承け、大正、昭和と木村邸内で木村博昭(1866-1931)、長久(1910-45)が祭祀を執り行つた。その後、木村家から斯文会、現在の湯島聖堂に恩賜神農像は委託され医業の神様として現在まで祭祀が続けられている。木村博昭が浅田家から恩賜神農像を承けるとき、浅田宗伯が守り本尊として遺愛していた神農像も木村家に引き継がれたことは、ほとんど知られていない。その神農像がいまも大事に引き継がれていることが判明したので、その経緯とともに報告する。

筆者が一昨年の神農祭に出席した際、小曾戸洋先生のご

漢方医界 の MEMO

令和7年

10月

12日 第58回日本漢方交流会学術総会

(大会委員長・中川智代氏、実行委員

長・松井りか氏)が新宿区の早稲田

大学国際会議場 井深大記念ホール

で開催された(現地とウェブのハイ

ブリッド)。「虚弱を考える」をテー

マに、庄司良文氏(東京医薬看護専門学校)が「啓迪

集」に学ぶ「虚」、田村哲彦氏(壮健タムラ薬局)が

「虚弱と漢方」、鈴木達彦氏(帝京平成大学薬学部)が

「歴史の中の虚弱」と題し特別講演を行なった。

20日 自民党と日本維新の会は、連立政権樹立に関する合

意書を公表した。社会保障政策の項では、「医療法に関

する三党合意書」及び「骨太方針に関する三党合意書」

に基づき、OTC類似薬を含む薬剤自己負担の見直しな

ど、医療制度改革の具体的な制度設計を令和7年度中に

実現しつつ、社会保障全体の改革を推進することで、現

役世代の保険料率上昇を止め、引き下げていくことを目

指すとした。

23日 日中の生薬・漢方製剤界の交流行事として、中国医

薬保健品進出口商会の訪日団41名(孟冬平団長)が日本

を訪れた。文京区の東京ドームホテルで開催された日本

漢方生薬製剤協会との交流会では、日中双方の代表者が

各々の取り組みについて講演を行った。中国側は、呉華

慶氏(浙江省中薬材産業協会副会長)が「中薬材生産質

量管理規範GAP」の中国生産地における浸透状況」、

于志斌氏(中国医薬保健品進出口商会中薬部主任)が

「2025年度版中国薬典」の変化」、柳燕氏(同商会

中薬部副主任)が「直近の中国の生薬輸出入動向」につ

いて発表し、日本側は、坂上誠氏(日本漢方生薬製剤協

会保険薬価委員長)が「医療保険の給付体系・漢方製剤

等の現状」、布施貴史氏(同協会技術品質部会長)が「漢

方・生薬製剤製造の品質管理」、小柳裕和氏(同協会国

際委員長)が「中国における日本の漢方情報の誤報道紹

介」について発表した。(日本漢方生薬製剤協会ホーム

ページより引用)

11月

7日 自民党の「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」

は総会を開き、OTC類似薬の保険給付見直しをめぐり

日本東洋医学会や日本漢方生薬製剤協会の代表者などと

意見交換を行った。田村憲久衆院議員(同議連会長)は

漢方薬の保険適用除外の動きに対し、「漢方はもともと

価格が低い。これを対象にしているのか」と疑問を呈し

1月1日より施行されることとなる。

19日 自民党、日本維新の会の両党は、OTC類似薬について、保険適用を維持しつつ、一部の薬で患者に薬剤費の4分の1の追加負担を求める新たな仕組みを設けることで合意した。対象となる医薬品は湿布や胃腸薬、アレルギー薬など77成分（約1100品目）とし、2026年度中の実施を目指す。なお、この中に漢方製剤は含まれていない。

〔文責 西島啓晃・渡辺浩二〕

※当該記事は、本誌編集企画委員会にて可能な限り情報収集の上まとめたものですが、誌面の都合上、掲載できない事項や記載漏れなどが生じる場合があります。ご容赦ください。

祝・「目でみる漢方史料館」五百回

本号で掲載五百回を迎えた。当初一報ずつの掲載であつたが、68巻4号から掲載頁がさらに増えて、二報ずつ（ときに一報または三報）の掲載となった。

本欄は本誌の顔である。長く続くことを切に願う。

（編集局）

漢方関係学会・研究会予定（3月）

これまで新型コロナウイルス感染症の影響下にありましたが、徐々に通常の開催に戻ってきました。この間習得したWeb開催のノウハウを活かしてハイブリッドでの開催が主流になっています。今回は、2026年3月に開催または中止の連絡を頂いた会のみ掲載しております。その他の会に関しましては事前に各連絡先または事務局にてご確認下さい。尚、各会ご担当者におかれましては、令和8年4月以降の年間スケジュールを当編集局宛てにお送りくださいますようお願い申し上げます。

●日本東方医学会第18期中医学研修講座―臨床の部

日時 3月7日（土）午後6時～8時

会場 WEBによるライブ配信

内容 研修科目…精神神経科「不眠、不安感、うつ状態、月経前不快

気分障害（PMD）などにおける漢方治療の実践」（長瀬眞彦

共催（株）ツムラ

事務局 （一財）東方医療振興財団事務局 PH03・6264・3016

E-mail: saidan@photoor.jp

●第70回広島漢方研究会月例会

・漢方薬・生薬認定薬剤師制度漢方必須研修対象講座（2単位）

日時 3月8日（日）午前9時半～午後0時半

会場 広島県薬剤師会館2F・ふたばホール（広島市東区二葉の里）

内容 「動物性生薬～こんないろいろなものが使われている?!」（水

島美代子）、「春の不調 漢方薬と食養生で整えましょう」（清水

枝里）、「今年の夏の猛暑に負けない、夏負けの漢方」（中島正光）

主 催 広島漢方交流会

共 催 一般社団法人日本生薬学会

連絡先 鉄村 ☎082・232・7156 E-mail: info@tetsumura.jp

●第67回近畿鍼灸漢方研究会3月例会

日時 3月8日(日) 午前9時55分～午後4時55分

会場 大阪国際交流センター3F1号(大阪市天王寺区上本町8-2-6)

会場とWebのハイブリット開催

内容 傷寒論、金匱要略の用語解説(富田知世子、素問解説(中雅

哉)、柴田良治先生の治療メモNo.43(村上清尚)、症候別漢方療法 第41回(夜久泰造)、漢方処方解説No.134(山口導則)

事務局 富田 E-mail: kinsinkan@yahoo.co.jp

●第84回日本臨床漢方医会 漢方家庭医講習会(Web)

・日本医師会生涯教育参加証対象講座(1単位)

日時 3月8日(日) 午前10時～11時15分

会場 Zoom開催

内容 特別講演…口腔顔面領域の神経障害性疼痛と漢方(山口孝二

郎)、鼎談…口腔顔面領域の慢性痛の漢方療法(山口孝二郎、渡辺賢治、和智明彦)

共 催 日野市医師会、多摩市医師会、クラシエ薬品(株)、日本臨床

漢方医会

連絡先 クラシエ薬品(株) 北岡 ☎080・5967・6370

●ANNE X漢方三考塾

日時 3月8日(日) 午前10時～午後4時半

会場 東京 神楽坂三考塾研究室(東西線・神楽坂駅至近)

ハイブリッド(研究室と塾会員のZoom会議)形式予定

内容 「本草備要」(廣橋義和)、「温病学説」(菅沼栄)、「Common

disease と漢方」(小池加能)

連絡先 東京都新宿区赤城元町2番4号(神楽坂漢方有恒薬局)

☎03・6260・7618 E-mail: sankojuvuku@gmail.com

●第52期東海漢方入門講座3月講座

・漢方薬・生薬認定薬剤師制度漢方必須研修対象講座(3単位)

日時 3月8日(日) 午前10時～午後4時半

会場 名城大学八事キャンパス(予定)

内容 誰にも分かる漢方基礎「四診と経絡②」(林誠二)、血の道症「浮

造」、方剤解説「活血剤」(生田悠起)、生薬解説「甘草」(箕輪曉美)

事務局 東海漢方協議会事務局・大見生薬(有)内(名古屋市中千種区)東海漢方協議会HP「お問い合わせフォーム」より

●第61回日本東洋心身医学研究会

日時 3月14日(土) 午後0時45分～5時25分

会場 東京コンファレンスセンター・品川(港区港南1-9-36)

ハイブリッド開催(現地+Web)、オンデマンド配信(一般

演題1～4) 3月25日(水)～4月17日(金)

会長 河合 啓介(国立国府台医療センター 心療内科)

テーマ 「現代社会における心身のレジリエンス

——東洋医学的アプローチの可能性——

注・演者及びその主な所属のみを記載

〔一般演題1〕

1 体位性頻脈症候群に対する漢方治療の有効性

済生会横浜市南部病院 脳神経内科 中江 啓晴

2 起立性調節障害患者の背景にある心身相関に桂枝加竜骨牡蛎

湯加減が奏効した一例 飯塚病院 漢方診療科 松山 圭

3 頭痛の原因検索と、治療における漢方薬の役割に関する考察

香川大学医学部附属病院 精神科神経科 木戸 瑞江

4 回避・制限性食物摂取症の体重回復に補中益気湯が補助的に